

今福線の今昔フォトグラフ



今福第五トンネル付近 (昭和14年頃)
今福第五トンネルを抜け下府川を渡る工事現場。まっすぐ佐野地区へ向かう路盤上にはトロッコのレールが見えます。



今福第五トンネル付近 (現在)
手前の橋脚は失われており、今は水面付近に土台跡と鉄筋がわずかに残っています。路盤跡は木々に覆われています。



おろち泣き橋 (昭和13年頃)
下府川沿いに建設中の4連アーチ橋。当時は杉の丸太を使って足場を組んでいた様子がわかります。



おろち泣き橋 (現在)
現在は市道に転用されており、橋の両側に落下防止のための手すりが施されています。田園風景は今も変わりません。

今福線沿線の見どころ



A [国府地区] 石見国分寺跡
現在の浄土真宗金蔵寺境内にあり、塔跡と礎石が一部残っているのみで、全体像は明らかになっていません。発掘された瓦・土器などから、国府地区が古代石見国の中心であったことを示しています。



B [国府地区] 下府廃寺塔跡
7世紀末～8世紀初頭頃に建立され、10世紀初めまでには廃絶した寺院と考えられています。一町四方の寺域が想定できる規模は、石見の中核的な寺院であったことを伺わせます。



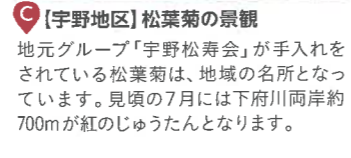
E [佐野地区] 丹後坂の石畳
江戸時代、浜田藩主の一行が参勤交代の時に、この丹後坂を通り広島へ向かいました。雨水で路面が崩れないよう、坂に石を敷き詰め流失を防いだのは当時の人の知恵でしょう。



F [雲城地区] ハッチョウトンボ生息地
日本一小さなトンボで絶滅危惧種のハッチョウトンボが生息し、県下でも最高ランクの群生と評価されています。見ごろは5月下旬から8月上旬で、地元で生息地の管理やイベントを実施されています。

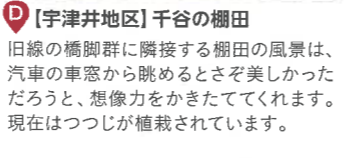


今福線ウォーキングマップ



C [宇野地区] 松葉菊の景観
地元グループ「宇野松寿会」が手入れをされている松葉菊は、地域の名所となっています。見頃の7月には下府川両岸約700mが紅のじゅうたんとなります。

G [今福地区] 山藤の松
この松はかつて、一里塚の役目を果たしていました。参勤交代などで多くの旅人の道標となり、旅人を目的地へと導いてきました。樹齢は300年とも400年とも言われています。※令和6年2月に松枯れのため伐採され、現在は切り株が残る。



D [宇津井地区] 千谷の棚田
旧線の橋脚群に隣接する棚田の風景は、汽車の車窓から眺めるとさぞ美しかっただろうと、想像力をかきたててくれます。現在はつつじが植栽されています。

H [丸原地区] 丸原薬師堂
今福の安楽寺の末庵で東方庵ともいい、本尊は薬師如来。かつては、近郊から多くの参詣者がありました。近隣に覚善寺や丸原天満宮などがあります。

今福線いち押しビューポイント



● JR下府駅「幻の3番線」
左側2番のりばのさらに右側(幻の3番線)に今福線旧線が入り、右の小山に向けて橋台や路盤が建設されました。現在、3番線は空地となっています。



● 有福第三トンネルと橋脚
県道の桜並木を過ぎると突然遺構が現れます。対岸のトンネル坑口と橋脚のつながりに未成線の無念さを感じさせます。見学の際は車両の通行にご注意ください。



● 橋脚群
旧線では最長の橋梁です。円形の橋脚は川の流水の影響を小さくするためのものです。全国的には舟形や小判型が多く、貴重な存在です。県道を挟んだ山側には橋台と今福線第一トンネルがあり、小山に登ると橋脚群が右にカーブしている様子がわかります。



● 5連アーチ橋
現在、県道として使用されています。県道下に降りて眺めると、山側の擁壁と旧線が県道の各片側1車線ずつを構成する面白い構造であることがわかります。石見を象徴するような里山と赤瓦の民家、田んぼがありなす風景も魅力です。



● おろち泣き橋
この橋の下の1点に立つと、目の橋からある音が大きく聞こえるスポットがあります。4連アーチ橋をおろち(大蛇)の胴体に例え、今福線が開通しないことが決まった日から、おろちがひそかに泣き続けていると地元の人は言います。



● 4連アーチ橋
今福線アーチ橋群のシンボリック的存在。コンクリートアーチ橋は、戦争による鉄不足の時代に多用されたものです。新線や紅葉の時期には美しい景観に溶け込み、悲運の歴史を今に伝えています。橋の奥に今福第四トンネル、1連アーチ橋があります。



● 第一下府川橋梁・4連アーチ橋
新線は、下府駅を起点とする旧線の路盤を利用せず、浜田駅から直線的な線形をとりました。新旧未成線の橋梁が同時に見られる遺構は、全国的にもたいへん珍しい存在です。



● 下長屋トンネル (金城側)
新線の第一下府川橋梁からつながる、全長1633mもある長いトンネルです。不思議なことに、入口と出口でトンネルの形状が異なります。金城側からは坑口を見学できますが、トンネル内には入れません。